

第25回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

1 日時 平成25年8月19日(月) 午後3時～午後5時

2 場所 鳥取県庁 第21会議室(第2庁舎9階)

3 出席者 別紙出席者名簿のとおり

4 概要

(1) 平成24年度評価の決定について

ア 審議結果

議長が委員長案について委員会に諮り、一部字句修正を除き、出席委員の全員一致で決定。

〔修正箇所〕 資料1の2ページ、上から13行目「大手企業の撤退以降」を「大手企業の事業再編等」に修正。

イ 主な意見

(本名委員長)

- ・組織運営や人材育成等、さまざまな点で改善が著しく、法人化のねらいに沿った方向に進んでおり、委員全体が評価している。10段階評価で9という意見もあったが、もう一段上がれるという期待感を込めて8としている。

(羽馬委員)

- ・民間の視点からみて、個人の技術や能力をより引き出すために、個人ごとの到達目標などをもっと設定すべき。
- ・大手企業の再編等により県内中小企業は技術開発のバックボーンがなくなった。県内の中小企業を支えるため、センターが柱となり、技術開発の面で引っ張ってもらいたい。また、鳥取大学や米子工業高等専門学校と連携を図り、売れる商品をつくるという観点で、産業技術センターのノウハウや企業から得た情報を蓄積してほしい。

(安田委員)

- ・産業技術センターの活動について、広く県民に知ってもらうことが必要。無料でメディアを活用できる方法もあるので、今後の課題としてほしい。

(本名委員長)

- ・資料1の下から6行目の文末「図るべきである」、2ページ目の下から10行目「設定するべきである」と、かなり強い表現になっている部分を「期待したい」などに修正するか、検討してほしい。

→ (岡村 県商工労働部長)

- ・「期待する」は自主的な目標で、「べきである」となると、何らかの答えを求められる。
(「べき」でいいとの複数の声あり。)

(本名委員長)

- ・いろいろな部分で産業技術センターも変わっていくべきという意味で、原案どおりで進めたい。
- ・これまでの評価は5段階で「3」、10段階で「7」が4年続き、昨年度に初めて「4」と「8」になった。それだけ変化し、よく見える形になったが、もっとよくなるという期待感もある。

(辻 委員)

- ・見える化は進んだが、最終的には、経済的な自立に向け、次のステージでもっと力を入れていくことが必要になる。

→ (岡村 県商工労働部長)

- ・それは公務員型独立行政法人のある意味限界だと思う。県が作成した中期目標に到達すれば、評価としては及第点であり、さらに機能強化していく部分については県側のマネジメントになる。

(辻 委員)

- ・一つの研究テーマについて、予算が尽きたから終了ということではなく、企業側のニーズに応じていく方向で掘り下げれば、徐々に技術も研ぎ澄まされ、収入につながるという好循環が生まれる。

→ (岡村 県商工労働部長)

- ・そこは独立行政法人のマネジメントによって実現可能な部分です。

(2) 産業技術センターに対する評価結果の講評

ア 委員長講評

(資料1を読み上げながら部分的に補足説明)

- ・全体評価は5段階で4、10段階換算で8とする。
非常によくがんばっている。項目別評価は4.18。各委員が4を超える評価をしており、期待していた力を発揮し、取り組まれている。今後さらに伸びてほしい。
- ・相談業務や人材育成に時間をとられてきているが、試験研究の部分も非常に重要であり、さらにレベルアップが求められる時代。さらにオンリーワンでナンバーワンの技術をもってほしい。

イ 各委員コメント

(羽馬委員)

- ・もっと企業と一体化したようなセンターになってもらいたい。さまざまなニーズやシーズを吸収し、鳥取大学や米子高専などと連携して、センターが技術力のまとめ役になることを期待している。

(安田委員)

- ・職員の表彰制度に係る基準が明文化されていないので、明確にしていきたい。
- ・センターの自己収入が、費用対効果と比較して少ない。対前年比で表示するなどしてほしい。

(辻 委員)

- ・できる限り効率化を図り、次のステージでは、研究開発の部分で特許的価値を生む方向に進むことが理想である。
- ・選択と集中によって、掘り下げる価値があると思われるテーマを見つけ、深く掘り下げていくことができるとうい。今後もがんばってほしい。

ウ センターの主な発言

(山下 産業技術センター企画総務部長)

- ・高い評価をしていただきありがとうございます。職員の意識向上、技術力向上などにおいて成果がはじめ、少しずつではあるがセンターのモットーである中小企業のホームドクターの役割が果たせてきている。今回の評価内容を受け、できるものから早速センターの機能強化の充実に取り組んでまいります。
- ・評価の本文に「べきである」という表現が2か所使われているが、もう少し裁量の余地があるような表現にしていきたい。

→ (本名委員長)

- ・その点は評価委員で協議した結果、原案どおりとした。「業務の効率化を図るべきである」については、前向きに効率化を図る試みをしていただきたい。「研究テーマを設定すべきである」についても、特許申請の目標設定が低すぎるので、特徴的なものについては特許をにらんで戦略的にテーマ設定していただきたい。今のセンターの力であれば十分可能である。

(山下 産業技術センター企画総務部長)

- ・評価については真摯に受け止めて対応してまいりたい。特許については、目標件数2件に満足することなく、実績で4～5件出している。ただ、特許を取得するだけでなく、広く使ってもらうことが重要と考えており、そのための関西圏でのPRなどは引き続き取り組みたい。

→ (本名委員長)

- ・あえて「べきである」としているのは、センターができるという我々の判断。100%でなくても、そういった考えを導入していただきたい。同じ言葉でも出す方と受け取る方の違いはあるが、我々としてはできるという期待感を持っており、むしろそうやって変わっていく方がよい。

(3) 財務諸表の承認に係る意見聴取について

ア 審議結果

資料2に基づき事務局より説明し、出席委員一致で、原案のとおり決定。

イ 主な意見

特になし

(4) 中期計画に定める用途に充てられる剰余金の額の承認に係る意見聴取について

ア 審議結果

資料3に基づき事務局より説明し、出席委員一致で、原案のとおり決定。

イ 主な意見

特になし

(5) 今後のスケジュールについて

ア 審議結果

資料4に基づき事務局より説明し、次回評価委員会の開催は3月までに開催することとなった。

イ 主な意見

(辻 委員)

- ・26年度のセンターの事業計画を説明していただく際には、今回の24年度評価を受けて、変更した点がよくわかるように資料を作成するよう伝えていただきたい。25年度の評価はこれからですが、26年度の計画を立てるときに、24年度の評価すら反映されていないようでは意味がない。

→ (事務局)

了解。